

新規登録の減少と「再登録せず」の増大

2005年度輪番登録終了

登録者数 2,784人(前年比 10.2%減)、1日就労数 191人+24人(前年比 14%減)

既に承知のように、今年の登録が終わった。何番まで伸びるだろうかと、多くの仲間が注目していたが、昨年の登録数を下回った。これは、再登録しなかった仲間が昨年より174人多く、新規登録の仲間が昨年より349人少なかったことによる。引き続いての登録は昨年より33人多かったにとどまった。

再登録しなかった仲間は、飯場から帰れなかった、病院や路上・公園で亡くなったなどの他、生活保護生活に移行した仲間が多く含まれていると考えられる。今年も、60歳以上の仲間は、積極的に野宿からアパート生活への移行・生活保護制度の活用を考えてもらいたい。残念ながら、輪番就労の現状は、生活を支えるに十分な収入をもたらすことができず、輪番就労やアルミ缶集めでの野宿生活は、死を早めるばかりだから…。

新規登録の減少は、昨年、今年の3月まで割合に仕事があり、もう少ししたらまた、の期待感があると思われること。また、国の予算(雇用創出基金)が無くなることから、輪番就労の存続、あるいは就労数の大幅減少が予想され、事業に対する不安が広がっていたことが考えられる。

実際には、大阪府・市の予算によって、就労数は若干減少したが、輪番就労は存続することができた。そのことは4月以降の事実として、多くの仲間は知っていたはずであるが、先に書いたセンター求人への期待と輪番就労への不安、期待感の薄れが相まって、新規登録が減少したものと思われる。

2005年度

年齢区分	新規登録	継続	合計	未登録
55未満	11人	6人	17人	2人
55-59	401人	812人	1,213人	233人
60-64	171人	1,036人	1,207人	450人
65-69	32人	240人	272人	225人
70以上	11人	64人	75人	32人
総計	626人	2,158人	2,784人	942人
55未満	1.8%	0.3%	0.6%	0.2%
55-59	64.1%	37.6%	43.6%	24.7%
60-64	27.3%	48.0%	43.4%	47.8%
65-69	5.1%	11.1%	9.8%	23.9%
70以上	1.8%	3.0%	2.7%	3.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均年齢	58.4歳	61歳	60.4歳	62.1歳

2004年度

年齢区分	新規登録	継続	合計	未登録
55未満	11人	5人	16人	5人
55-59	582人	780人	1,362人	200人
60-64	317人	1,054人	1,371人	348人
65-69	52人	234人	286人	184人
70以上	13人	52人	65人	31人
総計	975人	2,125人	3,100人	768人
55未満	1.1%	0.2%	0.5%	0.7%
55-59	59.7%	36.7%	43.9%	26.0%
60-64	32.5%	49.6%	44.2%	45.3%
65-69	5.3%	11.0%	9.2%	24.0%
70以上	1.3%	2.4%	2.1%	4.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均年齢	59歳	61歳	60.7歳	63歳

登録者数の推移

年度	登録者数
1999年度	1,966人
2000年度	2,815人
2001年度	3,303人
2002年度	2,821人
2003年度	2,893人
2004年度	3,100人
2005年度	2,784人

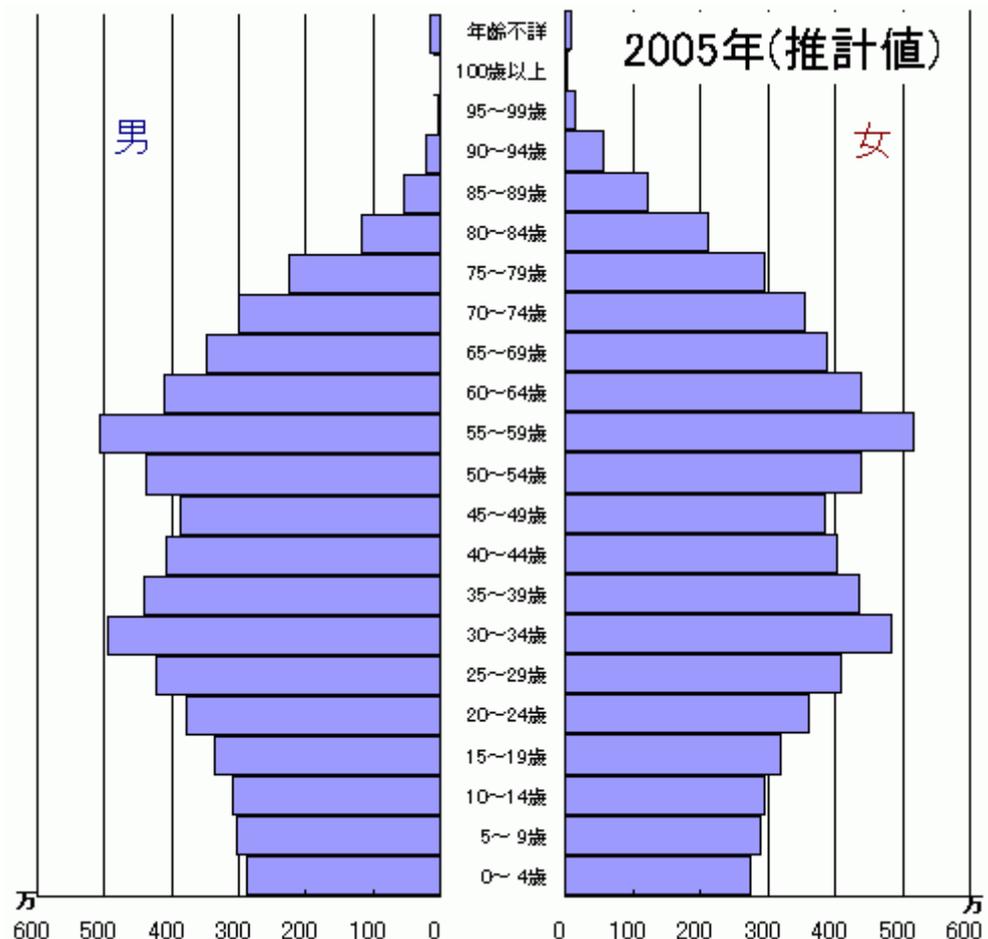
輪番就労の先行きとセンター求人の動向は...。 それでも避けられぬ高齢化への備え

では、輪番登録者数は、来年以降も減少し続けるかという、そうは考えにくい。センター求人が、今年の3月のような状況で、梅雨明け以降安定して推移するとは考えにくい(そうなればとって嬉しい、多くの仲間が助かる。)し、「2007年問題」もある。

「2007年問題」とは、戦後のベビーブームに生まれた人々、いわゆる団塊の世代が、60歳の定年を迎え、生産現場から離れることから予想される生産能力の低下、社会保障費の増大などを指す。

右のグラフは、佐世保工専の牧野先生のホームページから借用した年齢5歳刻みの人口ピラミッドのグラフである。推計値であるが、それによると、人口の中で占める割合は55歳から59歳が最大であることがわかる。

新規登録を細かく年齢で見ると、常に55歳が最大のグループを成している。今年の場合は、55歳が188人、56歳が79人、57歳が56人となっている。昨年は、55歳が131人、56歳が184人、57歳が117人だった。それからすると、輪番登録者の最大の増加要因の山は越えたように思える。しかしながら、新規登録者の平



均年齢が 58 歳を超えていることを考えると、釜ヶ崎の輪番就労においても「2007 年問題」は無関係とはいえないように思われる。新規登録の最大年齢グループが 60 歳前後となる年が……。ようするに、輪番就労の維持・拡大の必要性はますます大きくなるということだ。

そのためには、大阪府・市の予算を当てにするだけでなく、国の予算確保が欠かせない。今、開会中の国会にも対策予算確保の請願を提出しているが、なんとしてでも実現させなければならない。

一方で、従来の清掃や除草以外の仕事、たとえば 4 月におこなった宝塚市の広報紙の 9 万部各戸配布のような仕事を、開拓していかなければならない。広報誌の配布には 300 名を超える仲間が働いた。

就労支援センターも近く開所する。輪番就労の拡大を目指すことを基本とするが、就労での経済的自立を確保するためには、別の仕事の確保も必要だ。